図書館員のひみつの本棚　第189回

　今月は冬に気持ちがあたたかくなる絵本をご紹介します。

『あかいてぶくろ』
林　木林／文　岡田　千晶／絵　小峰書店　2021年　￥1600(税別)

＜お勧め年齢＞
乳幼児★★★　小低学年★★☆　小中学年☆☆☆　小高学年☆☆☆　中学生☆☆☆
高校☆☆☆　一般☆☆☆
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>
　いつもちびちゃんと一緒にすごしているあかいてぶくろ。てぶくろの右と左もいつも一緒。でもある時、ちびちゃんは森の中で右のてぶくろをなくしてしまいます。右のてぶくろはうさぎに拾われ、左のてぶくろには新しい右のてぶくろがやってきて…
　緻密でリアルですがふわっとやさしい絵で、ちびちゃんのほっぺの丸みや毛糸の柔らかさ、家の中のあたたかさなどが見事に表現されています。 詩人でもある作者の文章もどことなくほんわかとしていて、冬の絵本なのにとてもぬくもりを感じます。

<子どもに手渡す時のポイント>
　ストーリーがしっかりしているので、3～4歳くらいからがおすすめです。
　細かく描き込まれた家の中の様子や動物たちの表情などは近くでじっくり見てほしいですが、全体的に抑えた色味の中で手袋の赤い色が目を引くので、グループでの読み聞かせにもよいと思います。離れて見ると表紙の手袋のハート形がパッと目に飛び込んで来たりと、近くで見るのとちょっと違った楽しみ方もできそうです。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。